

令和7年度組織目標 知事協議概要

部 局 名	健康医療福祉部
日 時	令和7年(2025年)4月22日(火) 14:00～14:45
場 所	特別会議室
出 席 者	知事、東副知事、岸本副知事、知事公室長、総合企画部長、総務部長、総務部管理監 部長、次長(事務)、次長(技術)、管理監(医療福祉連携室長)、健康福祉政策課長、医療政 策課長、健康危機管理課長、健康しが推進課長、医療福祉推進課長、障害福祉課長、薬務課長、 生活衛生課長、医療保険課長

発言者	発言概要
知事公室長	戦後80年の取組は非常に大切。子ども若者にとってこれから平和をどう考えるか。湖南省交流に行くのは限られた人数なので、どのように広げて次の世代につなげていくのか、具体の仕掛けは考えているか。
健康福祉政策課長	事前学習、事後学習をしっかりと行い、若い方には歴史を理解したうえで、今の中国の姿を感じてもらって持って帰ってもらいたい。また平和祈念館のサポーターにはもう少しコアの部分を実感してもらえるような形にしていきたい。
知事公室長	湖南省だけではなく、平和祈念館、教育委員会と連携して修学旅行で長崎・広島に行って実感してもらうことも含めて検討してほしい。
次長(事務)	次世代への語り部の育成も進めていくので、平和交流事業に参加された方をつなげていくことも考えられる。
知事公室長	民生委員や保護司のなり手不足という課題について、先を見据えた取組があれば教えていただきたい。
健康福祉政策課長	今年は民生児童委員一斉改選の年であり、説明会の早期実施や、タブレットの導入支援等を進めているが、なかなか課題の解消は難しい。大変さが言われがちだが、やりがいなどポジティブの部分を伝えていく必要がある。支援者を支援する環境づくりを進めており、制度を変えるというより「つなぐ」ということが大切だと考えている。
総務部長	健康づくりの取組は重要。国スポがあるので、BIWA-TEKUアプリユーザーも増えるであろうが、継続して取り組む必要がある。新規採用職員研修で「歩く」という切り口での健康づくりの提案があった。継続して取り組むためのアイデアがあれば教えていただきたい。
健康しが推進課長	歩くことは健康の入口。継続して使っていただく形をつくっていききたい。継続のためのインセンティブとしては、景品やポイント獲得イベントの充実が重要と認識している。
知事	歩くこと、ウォーキングについては、文化財、観光と絡めるなど、もう一段あげていこう。国スポのレガシーとして、2040年に向けて、ウォーキング滋賀 公共交通の利用促進にもつなげる。歩いて健康になろう。
健康しが推進課長	歩くことは健康づくりの取組として大変重要で、走るより取り組みやすい。公共交通の関係では、近江鉄道とともにスタンプラリーコースを利用したハイキングイベントを行うなど、BIWA-TEKUアプリユーザーは増える。いろいろな事業者とコラボすることに加え、国スポの会場巡りをはじめ、新たにスタンプラリーコースを設定することなどにより、きっかけづくりを充実させていきたい。
知事	「歩く」で施策をつくる。自転車もいいが、「歩く」。
岸本副知事	高齢者が社会とつながるのはすごく大事である。孤独孤立対策やレイカディア大学の充実、就労支援などがあるが、社会的処方については、どのように取り組むのか。
次長(事務)	当部だけでなく他部局とも、すでにある居場所や資源などいろんな活動の場につなげていくきっかけをどうつくっていくのかを考えたい。

岸本副知事	年を取ることは怖いことではなく楽しいことであるというイメージにつながるようお願いしたい。また、看護人材の確保育成について、滋賀の看護師養成の魅力を明確にすることが大事になると思う。地域枠や就学資金も大事だが、魅力的な実習や体験ができて、キャリアアップや将来像につながっていくというように打ち出してほしい。
管理監（医療福祉連携室長）	今回大きな形で検討する中で、増やすという観点とあわせて減らさないという観点もある。滋賀の医療機関で働く魅力や自分のライフワークにもつながる理想の働き方、本人のニーズに合わせてシフトチェンジしていただくような、滋賀らしい制度・仕組みができればいいと考えており、今年度中とはいかないかもしれないが、そういう議論してまいりたい。
岸本副知事	手に職をつけるだけではなく、滋賀ならではの素晴らしい学びができるというように打ち出してほしい。
知事	しがナイチンゲールプロジェクトといったものをつくれればいいのではないかな。
知事	2040に向けた打ち出しが大事。言っていることが正しくてもみんなが動くためには、心揺さぶられるためには、ネーミングもそう。8020ではないが、2040に向けた、ひとづくり、仕組み、元気高齢者もこれから15年行くぞという何かを立てててもいい
総合企画部長	北部振興で移住促進しようと思っており、ペットと暮らせるということを売りにしようと思っている。そういうところを推進するのに協力をお願いしたい。
生活衛生課長	昨年度、統計課が若い職員を集めて議論したと聞いている。その整理も踏まえどう移住につなげるのかを考えることになるのだと思うが、生活衛生課だけでは難しいので皆さんと一緒に考えていきたい
知事	衛生的なものも絶えず持ちながらではあるが、これからはペットとの暮らしは極めて大事な要素になっていく。
生活衛生課長	これまでから、「飼い主よし、動物よし、近所よし」の3方よしで人と動物が豊かに暮らせる社会づくりを進めてきているところ。そのあたりも踏まえて考えてまいりたい。
知事	動物保護管理センターあり方の検討もしていかなければならない。山奥ではなく、どうやって町中に持ってくるか、機能をどう変えていくのか、わくわくする取組になるといい。
総合企画部長	県内の製薬会社の支援はどういうところをきっかけに取り組むことになったのか。
薬務課長	従来から薬業の振興は取り組んでいるが、許認可や規制をしながら振興にも取り組んでいくというのは難しい部分があり、人材育成、技術支援をするというのが続いていたので、商工観光労働部と一緒に取り組むことで新たな視点や発想も出てくると思う。話し合い考えていきたい。
知事	滋賀県の製薬業や化粧品も含めて造っている企業の力をどう高めていくかという話は定期的に行っている薬業関係団体との勉強会で必ず出る。しかしながら、商工観光労働部は製薬業のことをあまり見ていない。薬務課は規制当局なので、そのような発想はあまりない。滋賀県で薬や化粧品を造っている企業はすごく力も歴史も持っておられるので、ここを連携してどう上げていくか、どういうことができるのか、みんな考えていこう。
総合企画部長	戦後80年を迎えるにあたり、戦争の悲惨さだけでなく、なぜ戦争に至ったのか、社会全体がどのようにして容認してしまったのかといったところも学ばないといけない。公文書を確認していると、召集令状の伝達など県も関わっていたことがわかる。本当の意味で平和を守るためにどうするかを全庁を挙げて考えていかなければいけない。
健康福祉政策課長	平和祈念館において、身近に戦争を体感してもらえるように展示をしているところ。事前学習で学びつつ、未来に向けてどう考えていくかというところを考える機会にしていきたい。
知事	日の丸返還や遺骨をご遺族に直接お返しすることを大事にしているのもそのような思いからである。

東副知事	ひとづくりのロードマップをしっかりと定めることについて期待している。よろしく願いたい。介護現場のDX ICTについて、どのような形で取り組むのか。
医療福祉推進課長	平成30年度から介護現場のロボット・ICT等の導入支援を行ってきているところ。令和5年度6年度は国の経済対策も活用し大幅に補助金を増額している。タブレットを導入し、介護記録を音声入力できるようにした施設では、外国人の介護職員に夜勤に入ってもらえるようになり全体の負担軽減につながっている。国が介護現場の業務改善ガイドラインを策定した際に、モデルにした施設では、3割程度の業務改善が図られたという効果も出ているので、しっかりと進めていきたい。
知事	2040年に向けてどうするか、全体をまとめて、それぞれの計画との兼ね合いもあるが、打ち出しをどうするのか考えませんか。リアルなイメージを描いて。どんな生き方をしていきたいか、どんな滋賀になってほしいか。考えたらあつという間かもしれない。5年ごとに区切ってこうなっていきたいというのはすごく大事かもしれない。医療、介護のひとづくりについては、ロードマップを作るなど、具体的な道筋をたてていこう。滋賀で医療に携わる、滋賀で障害者福祉に携わる、滋賀で介護に関わるということについて、もう1翻、2翻つけられるといい。国スポ・障スポ・万博のレガシーは最大限生かしたい。ここで得られるものを是非、大事にしていきましょう。 今年大きな災害があるかもしれない、その時に市町がと言わずに県として何ができるか、関連死を生まないように。特にトイレに何かソリューションがあるといい。 健康しがのビワテクはデータ、AI分析の活用はいいと思うが、もう一段あげられるといい。